

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,41 2022年 新年号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」



特集「夏季・冬季オリンピック開催記念 トリンピック」
蜂蜜の森から②「楽しいハチ暮らし」
「イタチ」11月 酒田市 撮影：土屋和哉 様

Special Edition

夏季・冬季 オリンピック開催記念 「がんばれニッポン! 第2回 トリンピック!」

コロナ禍で1年延期して開催された東京オリンピックが終わったかと思えば、すぐさま冬季オリンピックが開催となりますね。日本選手団の応援も兼ねまして、「第2回トリンピック」の開催をここに宣言します! 生態や特徴を知って観察の際の参考にしていただければと思います。

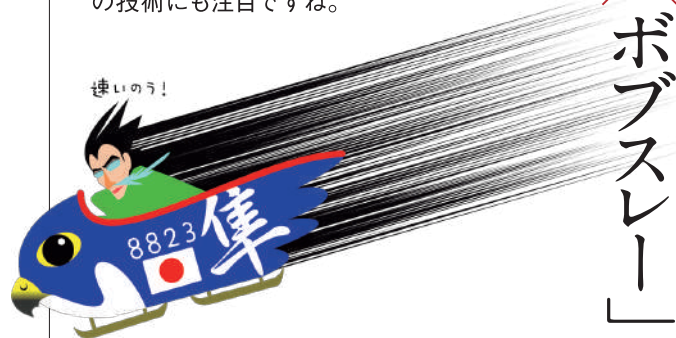
(写真画像:長船裕紀)

留 鳥として各地の里山に君臨するクマタカは、同種以外の鳥類に対して、なわばりの外へ追い出す排斥行動が見られます。“氷上のチェス”と呼ばれるカーリングは氷上の円の中から、いかにストーンを押し出すか、体力だけでなく頭脳を使ったスポーツですね。



「クマタカ」~~×~~「カーリング」

猛 禽類の中でも最速を誇るハヤブサの急降下スピードは時速300km/時をかるく超えます。“氷上のF1”と呼ばれるボブスレーは最速で140km/時ものスピードで滑走します。遊園地のジェットコースターの時速が70~90km/時なので、訓練していない人が耐えられるスピードではありませんね。選手の瞬発力に加えてソリを開発する企業の技術にも注目ですね。



「ハヤブサ」~~×~~「ボブスレー」

ア クロバティックな空中回転を加えながら、いかに水しぶきを少なくして着水するかを競う「飛込競技」ですが、猛禽類の「ミサゴ」がエサの魚を捕まえるために、水中にダイブしています。水の抵抗を少なくして飛び込むというよりも、ワイルドに「バシャー!」っと思いつりのよい飛び込みを見せてくれます。競技にすればカワセミやコアジサシの方が上手な飛び込みと言えるかもしれませんね。

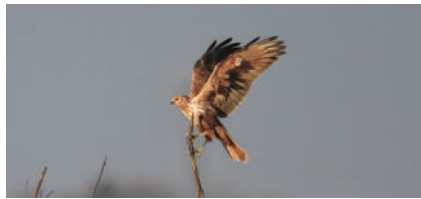


「ミサゴ」~~×~~「飛び込み」

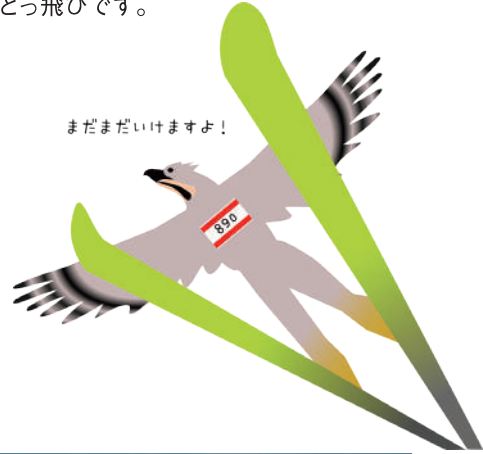
氷 上でスピンやジャンプをするフィギュアスケートは冬季オリンピックでも特に注目度の高い競技です。猛禽類チュウヒは長い脚を生かして背丈のあるヨシ原の中でエサをつかまえます。ヨシに翼が引っ掛からないように上にあげながら空中を翻ってエサをつかまえる姿はフィギュアスケート選手と例えても問題なし!



「チュウヒ × フィギュアスケート」



飛 距離と着地姿勢などを競うスキージャンプは「日の丸飛行隊」と呼ばれる日本選手団が活躍していますね。さて、渡りをする猛禽類ハチクマは9月頃に日本を飛びたち、11月頃には越冬地の東南アジアに到着ということで東シナ海の700kmをひとっ飛びです。

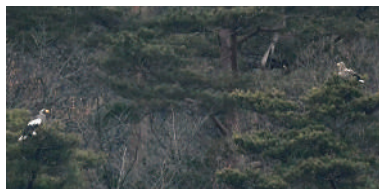


「ハチクマ × スキージャンプ」



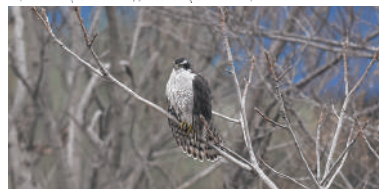
日 本最大の猛禽類同士が氷上(流氷)で激しくぶつかり合う! 金メダル(スケトウダラ)はどちらのものになるのか!

「オオワシ × オジロワシ × レスリング」



絶 滅危惧種・希少種として保護されてきたオオタカも、最近の調査によって生息数が回復してきました。絶滅危惧を脱した猛禽類界の「金メダル」選手と言って過言ではないと思います。

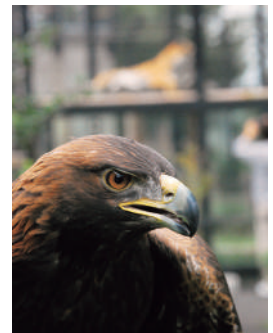
「オオタカ × 生息数の回復」



も う名前が金メダル。イヌワシの英名は「ゴールデンイーグル」。生まれながらにして「金」なんです。異論は認めません!



「イヌワシ × 金色の後頭部」



庄内の動物情報コーナー

10月にワイルドライフサーチによって行われた最上川の水鳥調査では、例年にないほどの飛来数になり、渡りの中継地として利用されたとのことでした。一方で野鳥の会山形県支部長築川堅治さんによりますと、冬季の庄内地方の野鳥数は若干少なめかもしれないと感じているとのことでした。引き続き各地の自然情報をmoukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2021/10/16 「モリアオガエル」酒田市
鮮やかな黄緑色は明らかに目立つ！朝日に照らされてまぶしそうです。
モリアオガエル「ふふふ。私は青い彼岸花をみつけたのですよ・・・。」なんてね～
撮影：本間憲一



2021/10/16 「ヒタキ」酒田市
夏羽から冬羽へ移行中！いつも観察していないと、冬と夏の見分けが難しくなりますね。旅鳥なので通過していく時期を見逃すとこれまた見れない。シギ・チドリよりは遭遇率は高めかもしれませんが。
撮影：たちん様



2021/10/28 「アカネズミ」酒田市
冬の準備のため、倉庫のベニヤ板を開けてみたところ、地中に迷路のように掘り進められた終点に子供たちが寄り添っていました。おかあさん！開けちゃってごめんなさい！
撮影：本間憲一



2021/10/28 「ジョウビタキ」酒田市
早朝の市立小学校の敷地内にて見つけた、冬を象徴する小鳥。濃い目のカラーリングが素敵！
撮影：佐原弘樹様



2021/11/14 「コハクチョウ」酒田市
集団渡来したコハクチョウたちの中に、首に赤い標識「C40」を付けた個体が交じていました。ロシアで標識をつけられた個体ようですね。
撮影：渡会様



2021/11/15 「ハイイロオウチュウ」酒田市
酒田市の離島、飛鳥で確認された迷鳥です。全身を覆う濃い目のグレーと目の周りの白さが只者ではないオーラを醸し出しています。
撮影：とし様

全国の動物情報コーナー



2021/11/16 「ヘラサギ」酒田市
ダイサギかなと思ったら、正面から見たら平たく大きなクチバシが・・・。しかもサギよりもトキに近い仲間だとか・・・。詐欺だ！
撮影：中村実様



2021/11/30 「オジロワシ」酒田市
今か今かと待ちわびていた！いよいよオジロワシの飛来をもって、冬の役者たちが出そろいました！ようこそ鳥の楽園庄内へ！
撮影：渡会様



2021/10/2 「クマタカ」山形県高島町
冠羽を立ててなわばりをアピール！威圧感が半端ない！やられる！
撮影：菅様

イベント開催報告

○化石の日「絶滅クラフト教室」

10月15日が「化石の日」だったことにちなんで、10月16日(土)・17日(日)の2日間にわたって「絶滅クラフト教室」と題して、本物の化石を使ったチャーム作りと化石の消しゴム作りを開催しました。世界では現在年間約4万種が減少しているという事実から、「絶滅」というキーワードに敏感になってほしいと考えて企画しました。絶滅した古生物を知って、触れて、工作を楽しく作っていただきました。夏に予約がいっぱいで体験できなかった方も多く、コロナウイルスによって機会損失につながっているのだなと改めて実感しました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、体験する教室をわけて、完全予約制の少人数開催とさせていただきます。来場してくれた皆さん、協力いただいた皆さんありがとうございました。



絶滅チャーム作りは老若男女問わず人気

○みどりの保育園事業「西荒瀬保育園 渡り鳥観察会」

11月18日(木)酒田市の西荒瀬保育園による「みどりの保育園」事業で「渡り鳥の観察会」を開催しました。

酒田市は冬季、ハクチョウをはじめとする水鳥たちが多く渡来することから、最上川河口をスワンパークとして整備し、国指定最上川河口鳥獣保護区にもなっています。はじめのあいさつを済ませて保育園を出ると、すぐそばの田んぼにハクチョウたちが集まって来ており、落穂を食べていたので観察することにしました。通園の途中に田んぼにいるところは気づいていたようですが、双眼鏡を使って採餌行動をしている所を観察してもらうことができました。その後、最上川河口のスワンパークへ移動しました。とてもおだやかな天気で、観察もしやすかったこともあり、20種類以上の野鳥を観察することができました。酒田市が野鳥たちにとって、大切な場所であることを感じてもらうことができたかなと思います。西荒瀬保育園の園児たち、先生方、ありがとうございました。



○観察会「チュウヒとハクチョウのねぐら入りを見よう！」

11月20日(土)観察会「チュウヒとハクチョウのねぐら入りを見よう！」を開催しました。講師は最上川スワンパークで早朝の水鳥カウントを実施しているワイルドライフリサーチ代表の鶴野レイナさんと、猛禽類の生態に詳しい長船裕紀希少種保護増殖等専門員です。

まずは室内にてスライド講座を聞きました。鶴野さんからは、なぜ最上川にハクチョウたちがやってくるのかや、水鳥の数を数えることの意義などを伝えていただきました。長船専門員からはチュウヒの生態や、環境について詳しく解説いただきました。

座学が終わった後のフィールド観察は、天候にも恵まれて良かったのですが、夕暮れ時の西日がさんさんと輝き、山形県の大地を潤す最上川のおだやかな川面に反射して、とても野鳥の識別をしにくい状況になってしまいました。しかし講座を聞いてからの観察は、とても理解が深まりました。コロナウイルスの感染拡大防止のため、少人数での開催とさせていただきます。参加していただいたみなさん、講師のお二人、協力いただいたスタッフの皆さんどうもありがとうございました！



この日見られた鳥

チュウヒ、トビ、ノスリ、ミサゴ、オオハクチョウ、コハクチョウ、マガモ、オナガガモ、カルガモ、トモエガモ、カワウ、オオバン、カンムリカイツブリ、カイツブリ、ヒシクイ、スズメ、モズ、ハジロカイツブリ、アオサギ、ダイサギ、ハシボソガラス、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ムクドリ、オオセグロカモメ 計25種



蜂蜜の森から 第20回（最終回）「楽しいハチ暮らし」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して、自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第20回目（最終回）です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？



「かぼちゃランタンと蜜ろうそくで作った“小人の村”」

写真：渡辺和哉氏



「移住させたアシナガバチの家（村）と減農薬野菜」

子供のころから図画工作とハチ好きだった私は、家業の養蜂を継ぐべく家に戻りました。しかし数年後にミツバチの巣で作る蜜ろうキャンドルづくりに熱を上げ独立。実家は弟が継いでくれました。それから私の暮らしは、蜜ろうキャンドル製造と並行して、徐々に様々なハチに関わる「ハチ暮らし」になっていったのです。

まず、5～6月は実家の採蜜を手伝いながら蜜ろうの収穫をします。夏休みになるとミツバチ観察会や蜜源の森歩き、パイプ好きなハチのおうち作りなどの様々な体験教室を受け入れます。工房のガラス窓には、アシナガバチの観察ブースを設けます。飼っている二ホンミツバチの採蜜も行います。

4年前から始めたアシナガバチをレスキューし無農薬の畑に移住させる活動もしています。害虫のイモムシ類を狩ってくれるのです。これまで毎年30群前後、134群の移住を成功させました。またアシナガバチの狩りが終わる9～10月にイモムシ狩りをしてくれる

ドロバチ系の繁殖も手掛けています。さらに夏から秋にかけては、スズメバチの駆除作業に追われます。本当は殺したくないのですが、現代人との共生は難しいのです。安全に畑で活躍させられないか農家さんと模索中です。そして、クリスマスまでは本業の繁忙期となり、冬の間は蜜ろうハンドクリームづくりのワークショップに回ります。春から使うためのアシナガバチやドロバチ類の巣箱づくりやメンテナンスもします。これが私の「楽しいハチ暮らし」な1年です。



安藤竜二（あんど う りゅうじ）
養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうそく製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。NPO法人朝日町エコミュージアム協会 副理事長。アシナガバチ畑移住プロジェクト主宰。近著『手作りを楽しむ 蜜ろう入門』（農文協）・編著『朝日岳山麓養蜂の営み』（朝日町エコミュージアム研究会発行）



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

5年20回にわたって連載いただいた安藤竜二さん本当に楽しい話題をありがとうございます。山形県にお越しの際は朝日町にも遊びに行ってみてくださいね。（本）

希少種保護増殖等専門員

某所にてイヌワシ調査のために冬季閉鎖中（積雪約1m）の車道を歩くと、たくさんのシカに遭遇しました。雪上の足跡（交差する本数）も年々増加しており、夏場は下層植生の衰退が見られます。健全な森林生態系の維持には、シカの個体数管理も急務に感じた場所でした。（長）

事務局

年末頃から急に積もり出し、あっという間に施設を囲むくらいに雪に覆われました。除雪は毎日の日課となり、運動不足解消とおなかの引き締め効果に期待しています！施設周辺は雪景色もきれいですよ！（清）

鳥海南麓自然保護官

庄内は地吹雪の季節、毎日の通勤路が怖いです。でも、今朝も出勤途中のハクチョウを見かけました。あの強さ、見習いたいです。（澤）

編集後記 & 施設情報 鳥海イヌワシみらい館 2月～4月の開館情報

開館時間・・・9：00～16：30

入館料・・・無料

休館日・・・2月（火、土、日、祝）、3月（火）

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス：<http://www.raptor-c.com/>

<https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor>

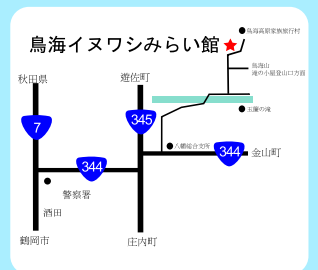
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.41 新年号

発行：猛禽類保護センター活用協議会
（事務局 鳥海イヌワシみらい館内）